

達成度(評価)	
A	: 十分達成できている
B	: おおむね達成できている
C	: やや不十分である
D	: 不十分である

学校名	唐津市立菴木学校
-----	----------

1 前年度 評価結果の概要	重点目標に対する評価と次年度へ向けて ・合科関連的な単元配列表を活用し効果的な教育課程を編成し実施することができた。指導と児童の学びの評価を連動させる手立ての構築を図っていく。 ・地域人材との連携組織体制と実生活をつなげる地域人材活用授業を行い、体験活動や表現活動を充実させることができた。体験活動のさらなる充実と地域社会への発信や行動化の在り方を検討していく。 ・業務の改善と時間外勤務時間の縮減については、改善の余地がある。職員が心身共に健康に働くことができるように、組織力を生かし、今後もより良い方策を探していきたい。
------------------	---

2 学校教育目標	<p>◇◇◇保護者や地域と共に創る「一人一人の笑顔が輝く」菴木小◇◇◇</p> <h2 style="margin: 0;">自ら気づき、考えて、動く子どもの育成</h2>
----------	--

3 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・主体性の深化と発展を目指したカリキュラムマネジメント ・地域人材の積極的な活用と、体験活動・表現活動の充実 ・組織力を生かした業務の改善と、時間外勤務時間の縮減
------------	---

4 重点取組内容・成果指標	5 最終評価	
---------------	--------	--

(1) 共通評価項目				最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組		具体的取組	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	
	取組内容	成果指標(数値目標)						
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成する。 【マイプランにおける教師の達成率80%以上】	・教職員間でマイプランを共有するとともに、校内研修等により取組の促進を図る。 ・学期に数回、アクションプランの進捗を自己評価する。	A	・学力向上アクションプランチェックシートを使って5月に実態把握を行い、今後の取り組みについて職員で共通理解を図った。中間チェックを9月に行い各自の取り組みを振り返った。指導改善に関する研修会を実施し情報共有することができた。	A	・全職員での共通理解・共通実践に皆で取り組むことができています。 ・校内研修等を行い職員での共通理解に努めています。	学力向上対策コーディネーター
	○主体的・対話的で深い学びの継続と展開	○学校は、児童が主体的に考え、グループやクラスで話し合うことで、自分の考えを広げたり深めたりする授業に取り組む。 【自分の考えを広げたり深めたりする児童85%以上(児童アンケート)】	・主体的に学べるような課題設定や単元を構成する。児童自身が学びをメタ認知できるような振り返りの場を設定し、よりアクションプランに沿った授業展開ができるようにする。	A	・「グループやクラスで話し合うことで、自分の考えを広げたり深めたりしている」(児童アンケート・11月実施)において86%の児童が肯定的な回答をしている。	A	・授業を参観させてもらい、子供達の意欲を感じさせられた。 ・児童数が少ないので指導が行き届いている。	研究主任
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○「あいさつ十一言」「ほかほか言葉」を推進し、児童の豊かな心づくりに取り組む。 【「あいさつ十一言」「ほかほか言葉」の言葉遣いをしている児童85%以上(児童アンケート)】	・児童の思いを高め、学校行事や集会活動を主体的に企画、運営する。 ・あいさつ十ひと言、ほかほか言葉の推進をする。	A	・「『あいさつ十一言』『ほかほか言葉』を使った思いやりの言葉遣いをしている」(児童アンケート・11月実施)において91%の児童が肯定的な回答をしている。	A	・挨拶などは元気な声でしっかりできています。 ・あいさつ、ほかほか言葉等の思いやりの心への指導がなされている。	特別活動主任
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○道徳の授業やアンケート等を効果的に活用し、いじめの早期発見・早期対応、いじめを生まない集団づくりに取り組む。 【保護者アンケート85%以上】	・いじめの早期発見のため月1回はいじめアンケートを実施する。 ・いじめを生まない集団作りのため、道徳や学級活動を中心とした授業の充実を図る。	A	・「学校は、道徳の授業やなかよしアンケート等を効果的に活用しながら、いじめの早期発見・早期対応、いじめを生まないための集団作りに取り組んでいる」(保護者アンケート・11月実施)において96%の保護者が肯定的な回答をしている。	A	・全体でよく取り組まれている。 ・小さな事柄でも、職員、保護者、本人で早期対応がなされている。	教頭
●健康・体づくり	○「望ましい生活習慣の形成」 ○「安全に関する資質・能力の育成」	○学校は「早寝・早起き・朝ご飯」を呼びかけたり、生活を振り返る場を設定することで、よりよい生活習慣づくりに取り組む。 【保護者アンケート85%以上】 ○児童生徒の交通事故を0(ゼロ)にする 【児童の交通事故0(ゼロ)】	・「早寝・早起き・朝ご飯」の徹底を図るために、元気チェックによる振り返りをする。 ・交通安全教室や避難訓練を通して、「自分の命は自分で守る」という危機管理意識の向上を図る。	A	・元気チェックを日常的に実施し振り返りを行っている。 ・「学校は『早寝・早起き・朝ごはん』の規則正しい生活習慣をしよう取り組んでいる」(保護者アンケート・11月実施)において、95%の保護者が肯定的な回答をしていた。 ・児童の交通事故はゼロである。	A	・元気チェック、保護者アンケートを踏まえ指導されている。 ・早寝・早起き・朝ごはんに取り組まれているが、家庭での協力が不可欠である。	教頭
	○日常的に健康・体力づくりに取り組む力の育成	○外遊びや、体育学習、環境を工夫することで、自ら運動しようとする態度づくりに取り組む。 【外遊びや体育の学習で進んで運動している児童85%以上(児童アンケート)】	・運動検定カード(水泳・なわとび・持久走)を作成し、活用を推進する。	A	・「外遊びやスポーツチャレンジ、体育の学習などで進んで学習している」(児童アンケート・11月実施)において94%の児童が肯定的な回答をしている。 ・水泳、なわとび、持久走で学習カードを使って活用を図ることができた。	A	・外遊びでの元気な姿がよく見られる。 ・外遊び推奨や、児童が少ないため合同の体育授業がなされている。	体育主任
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在職等時間の上限を遵守する。 【業務記録の時間外勤務時間が、全職員の月平均で28時間を下回る】	・教材の共有や校務の情報化を図る。 ・業務のマネジメントや連携・協働(ホウレンソウおひたし雑草)の推進を図る。	B	・業務記録では、4~12月の時間外勤務時間の平均は、31時間である。目標とする時間を上回ったが研究発表会や公開授業を行ったことを考えるとメリハリをつけた勤務ができています。	B	・効率よくされている。	教頭

(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目				最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組		具体的取組	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	
	取組内容	成果指標(数値目標)						
○主体性の深化と発展を目指したカリキュラムマネジメント	○「学習部」「活動部」「発信部」の3部連携を軸とした教育課程の見直しと改善	○教育課程部会、授業研究部会を組織し研究を推進していく。 ○校内研究会を年間10回以上開催する。 【全体会の開催10回以上】	・管理職、指導教諭(教務)、発信部(1人)、活動部(1人)で組織する教育課程研究部によるカリキュラムマネジメントの推進	A	・計画的に校内研修日を取捨することで共通理解を深め、学習部、活動部、発信部の活動を充実させることができた。 ・保護者対象アンケートで昨年度より肯定的な回答の割合が増えた項目は全23項目中18項目あり、カリキュラムマネジメントの効果が出ている。	A	・コロナ禍の中で工夫されてよく行事等取り組まれている。 ・教科によりリーダーを決めたりグループ別に話をしたり児童に主体性を持たせる授業がなされている。	教務主任
◎志を高める教育	◎地域と連携を図りながら郷土を誇りに思う児童の健全育成	◎地域の人・もの・ことを活用した体験型学習 全学年年間3回以上 【各学年の体験活動実施3回以上】	・厳木町教育フェスタを活用した体験活動の場を設定する。 ・地域の方と学んだことを発信するとともに、学ばよきを実感し、感謝の気持ちを伝える場として「地域ありがとう集会」を実施する。	A	・「環境芸術の森見学」「サガン鳥栖サッカー教室」「じゃがいも栽培」「田植え・稲刈り」「厳木川水生生物調査」「福祉体験講座(盲導犬、車椅子バスケット、手話講座)」「租税教室」「狂言体験」など27回の体験活動に延べ約90人のゲストティーチャーの協力を得て学びの充実を図ることができた。	A	・ありがとう集会で地域との連携を感じた。 ・体験型学習、教育フェスタ、ありがとう集会等ができています。	教頭

●...県共通 ○...学校独自 ◎...志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	重点目標に対する評価と次年度へ向けて ・教科横断型カリキュラムとして作成した合科関連的な単元配列表を活用し、効果的な教育課程を実施することができた。指導と評価の一体化を促す手立てを今後構築していく。 ・地域人材の豊かな知識や経験を生かした支援により体験からの学びを充実させることができた。児童の課題意識に応じた体験学習の開発や郷土の課題解決のために自分や地域住民でできる持続可能な取組について充実させていく。 ・研究発表を行う年度であったがメリハリをつけて業務を行うことができた。職員が心身共に健康に働くことができるように、業務改善と時間外勤務時間の縮減の視点をもち、組織力を生かした改善策を探っていく。
----------------	---